

DS-3000 シリーズデータステーション

振動解析操作手順書

株式会社 小野測器

ΟΝΟ ΙΟΚΚΙ

DS-3000 シリーズデータステーション 振動解析操作手順書

本操作手順書では、DS-3000 シリーズデータステーションを使用して、振動解析を行う一般的な操作手順を説明しています。

下図のシステム構成の様に加速度ピックアップを DS-3000 の Ch2 へ接続(Ch1 は未使用*)し、DS-0321 FFT 解析ソフトウェアにより FFT 解析を実行します。

(* 今回の例では、Ch2を使用していますが、特別な意味はありません。Ch1を使われる場合は、Ch2をCh1と読み換えてください。)

「1 つの操作がどのような動作になるか」という機能を説明していますので、いろいろ試していただけ れば幸いです。

DS-3000 用ソフトウェアの主な操作は [コンフィグレーション] ウィンドウで行います。メインメニュ ーでの操作は [コンフィグレーション] ウィンドウ内での操作に対応していますので、メインメニュー からの操作説明は省略しています。なお、「コンフィグレーション」ウィンドウの操作に関しては別紙 簡易操作手順書「コンフィグレーションの基本操作」を参照ください。

本操作手順書内では、連続したクリック操作による選択を"[ファイル] → [プロジェクトファイル] → [新規プロジェクト] → [**Exec**] の順にをクリックします"などの様に記載します。



■ システム構成

ΟΝΟ ΙΟΚΚΙ

- -1 起動
- -2 新規プロジェクトを開く
- -3 表示画面数の変更
- -4 入力源の設定
- -5 CCLDの設定
- -6 測定の開始・停止
- -7 単位校正
- -8 電圧レンジの設定
- -9 周波数レンジの設定
- -10 パワースペクトルの平均化
- -11 Y 軸表示単位変更
- -12 Y軸スケール設定
- -13 カーソル操作と値の読取り
- -14 速度、変位への変換表示
- -15 リスト表示
- -16 3D 表示
- -17 オクターブ表示
- -18 データの保存
- -19 保存データを開く
- -20 表示画面位置の入れ替え
- -21 File 表示から CH2 時間軸表示への切り替え
- -22 プロジェクトの保存と再生
- -23 起動時の条件設定



■ 操作手順

-1 起動

システム構成にあるように各機器を接続し電源 ON 後、DS-0321 FFT 解析ソフトウェアを立ち上げます

-2 新規プロジェクトを開く

 メインメニューから [表示] → [コンフィグレーション] の順にクリックし、「コンフィグレ ーション」ウィンドウを開きます。

🛃 Onosokki DS-3000(DS-0320) - [ウィンドウ 1]	
🗇 ファイル(E) 計測コントロール(C) 編集(E) 入出力設定(P) 解析設定(A) データ表示設定(D) モード(M) 表示(V) _ 🗗 🗙 🚽
AVG START PAUSE STOP REC TRIG SCHED SLOPE STO	
Current Current-3D Schedule Schedule-3D CH 1 💌 パワースヘウトル	✓ 5/3/22/0/ ✓ 5/2/23(0)
0 CH1: パワースへやトル Mag 0 CH2: パワースへやトル Mag	
출 -40 출 -40	ツールバー(<u>T</u>)
-80 -80 -80 -80 -80 -80 -80 -80 -80 -80	
0 <u>CH3: パワースへやれん Mag</u>	2×7&1
훓 -40 훓 -40	
-80 -80 -80 -80 -80 -80 × 2825kH₂ ½ -77.94dBVr	<u>پر</u> لار م
Peak 🔽 🏼 🖳 Log 👻 🗖 X軸拡大 Lin 🔍 🔛 0001 🔍 🔺 🔍	23

 ② 「コンフィグレーション」ウィンドウで、[ファイル] → [プロジェクトファイル] → [新規 プロジェクト] → [Exec] の順にクリックします。この操作により、現在の設定が破棄され、 新規プロジェクト(初期設定)が開きます。

📑 Onosokki DS-3000(DS-0320) - [ウィン	ዞ ሳ 1]	
🎯 ファイル(E) 計測コントロール(C) 編集(E)	入出力設定Φ 解析設定(A) データ表示設定(D) モード(M) 表示(V)	_ & × 🚽
FFT X AVG START PAUSE	TRIG SCHED SLOPE SIG OUT	0.0
コンフィグレーション や 3	e Schedule-3D CH 1 👽 איז	_
マ ファイル マ ファイル マ ファイル マ ファイル マ ファイル ブロジェクトファイル ブロジェクトの保存 クロジェクトの保存 シ フロジェクト設定 C¥Documer ト計測データファイル トフライン解析データを開く Open フライン解析データを開く Open	0 CH1: /177-2A*754/ Mag -20 -40 -40 -40 -40 -40 -40 -40 -4	8,5,5t 1 ,1,4,5,1,2 ,8,5,5t 1 ,1,4,5,1,2 ,20050 ,20050
 ▶ 日期限能 終了 Exec ▶ 計測コントロール ▶ 編集 ▶ 八出力設定 ▶ 解析設定 ▶ データ表示設定 ▶ モード ▶ 表示 ▶ ウインドウ ▶ オジション ▶ ヘルフ 	0 CH1: パワースペ学トル Mag -20 -40 -40 -40 -40 -40 -40 -40 -4	ε



-3 表示画面数の変更

グラフウィンドウ上部の画面数選択ツール [] をクリックし、下図のように上下2枠を選択します。2 画面表示となります。



グラフ番号は、左上から右方向へ、また行を変えて順に、「Graph 1」、「Graph 2」と連番に自動 的に割り当てられます。グラフ番号は、「コンフィグレーション」ウィンドウで [データ表示 設定]→[グラフフォーマット設定]→[アクティブグラフ番号]の順にクリックすることで 確認できます。





-4 入力源の設定

表示画面の上グラフを「Ch2 時間軸波形」に、下グラフを「Ch2 パワースペクトル」表示にします。

- ① 上側グラフをクリックし「アクティブ」にします。グラフがオレンジ枠で囲われます。
- ② グラフウィンドウ上部の入力源選択ツールで「CH2」を選択し、その右のプルダウンメニューから 「時間軸波形」を選択します。



③ 同様の操作で下側グラフをクリックし、入力源を「CH2」に、表示波形を「パワースペクトル」 に設定します。



- グラフをクリックするとオレンジ色の枠で囲われ、このグラフが「アクティブ」であることを示します。
- 「コンフィグレーション」ウィンドウでの各種設定は、「アクティブ」画面に反映されます。但し、例え ば周波数レンジや電圧レンジなど全 CH に関する測定項目は除きます。
- 「STOP」状態でないと、操作できない項目があります。例えば、平均処理回数は平均化測定中では文字 が薄くなって表示され、設定変更できません。

ΟΝΟ ΙΟΚΚΙ

-5 CCLD の設定

- ① 「コンフィグレーション」ウィンドウで、[入出力設定] → [入力設定] → [**Open**] の順に クリックします。「入力条件設定」ダイアログボックスが開きます。
- ② 「入力条件設定」ダイアログボックスで、「CH2」の「CCLD」にチェックを入れます。これにより、"+24V/4mA"が CH2 から加速度ピックアップに供給され、信号が正しく入力できるようになります。

🔁 Cinosokki DS-3000(DS-0320) - (🗇 🗸	ンドウ 1]	A	Sec. 1	1.1			= 🗊 😳
ラファイル(F) 計測コントロール(C)	編集(E) 入出力設定(I)	解析設定(A) デ ク表示設定	ξ(D) モード(M) 表示(V) *	フィンドウ(W) オブショ	>(0) ~127(11)		- # ×
AVG START	STOP BEC	TRIG SCHED SLOPE S	GOT OFFICE			8.8 m	Entra protei
Aff (He) 125	サンフル条件 内部 ・ サンフル支封 2043 ・	平均モード設定 ATD-SP1 平均処理条件 時間	 ・ 平均処理回転 11 ・ ・ ・		Repeat +		
Dom-on	• X	0HI • //0-249NS	• Mag			_	
1 271N							4
* HRIDAD-U * 938		入力条件設定					
	Open Open	Сні П	電圧した2 カップリング Ge 1Verns ・ AC ・	alo 3-Mta 1990 S	2(FLAT) •		
 ・ リンブル条件設定 	Cipen Pteb		1Vms * AC *	2 2 -	ZIFLAT) + ZIFLAT) +		
 (日本)入力設定 (日本)人人(1)(1)(1)(1)(1)(1)(1)(1)(1)(1)(1)(1)(1)(Nepest Open Open Open	U OH	1Vms (*) AG (*		209LAT) -	\$10 910 	
 入5ジュール設定 (由売出力設定 編析協定 	Open Open	(Vrma •) = 3-16-	時のみオートレンジ 三月 断線	1830HR	4271022		
▶ テーク表示設定 ▶ モード				OK (半15/2/2/2		
 ● 表示 ● ウルドウ ● オアション・ 							
* NI7		0.8			Dă		- 61
							_

-6 測定の開始·停止

① メインツールバー内の「START」、「STOP」ボタンで測定開始/停止します。表示波形が小さい場合、電圧レンジの調整(手順-8を参照)が必要です。下図は測定された振動波形で、上側「Graph 1」に時間軸波形を、下側「Graph 2」にそのパワースペクトルを表示しています。



緑色は CCLD が on になっていることを示す



-7 単位校正

Y 軸の読みが振動単位(m/s²)で直読できるように単位校正します。

 使用する加速度ピックアップに添付された検査票より、例えば「電圧感度:9.75 mV/ms⁻²」を 読み取ります。

加速度ピックアップ検査表(一部抜粋)

電圧感度	(at	160	Hz)	9.75 mV/ms ⁻² :
電荷感度	(at	160	Hz)	pC/ms ⁻² :
静電容量				—— pF

- ② 「コンフィグレーション」ウィンドウで、[入出力設定]→[単位校正]→[Open]の順に クリックします。「校正設定」ダイアログボックスが開きます。
- ③ 「校正設定」ダイアログボックスの「CH2」の「EU」にチェックを入れ、「単位名」選択リストから、「m/s2」を選びます。「単位名]キーインボタンをクリックし「文字列入力」ウィンドウを開き、単位名として「m/s2」をキーインすることも出来ます。



④ 「校正設定」ダイアログボックスで「CH2」の「EUタイプ」が「V/EU」となっていることを確認 します。



⑤ 「校正設定」ダイアログボックスで「CH2」の「EU値」キーインボタンをクリックし、「数値入力」ウィンドウを開き、加速度ピックアップの電圧感度、ここでは「0.00975」(9.75mV)をキーインします。



-8 電圧レンジの設定

入力信号に適した電圧レンジに調整します。入力信号がレンジオーバーすると [CH2] 信号ランプ が赤色に変わりますのでレンジオーバーしない様に電圧レンジを変更してください。

① 「コンフィグレーション」ウィンドウで、[入出力設定]→[入力設定]→[電圧レンジ設定] の順にクリックし、[CH2]の[▲][▼]ボタンで入力信号に適した電圧レンジに調整します。





-9 周波数レンジの設定

表示されたパワースペクトル波形を見ながら、分析したい周波数レンジに設定します。

① 「コンフィグレーション」ウィンドウで、[入出力設定]→[周波数レンジ設定]の順にクリックし、表示されたプルダウンリストから分析したい周波数レンジを選択します。下図では周波数レンジとして[10 kHz]を設定しています。



-10 パワースペクトルの平均化

パワースペクトルの平均化を行うことで、信号が持っている特徴がより明確になります。

- ① 「コンフィグレーション」ウィンドウで、[入出力設定]→[平均化処理設定]→[パワーSP. 加算平均]の順にクリックします。
- ② その下の[平均処理設定]→[回数]または[時間]を設定します。ここでは[回数]を設定しています。
- ③ 平均化処理設定が[回数]の場合は[平均処理回数]を、[時間]の場合は[平均処理時間] を設定します。[平均処理回数]右のキーインボタンをクリックし、表示される「数値入力」 ウィンドウで平均処理回数を設定します。ここでは平均処理回数として「100回」に設定して います。

опо боккі



- ④ メインツールバーの「AVG」ボタンをクリックします。ON になるとボタンが青枠表示に変わります。
- ⑤ メインツールバーの「START」ボタンをクリックします。いままでの平均結果をリセットし平均化測定を開始します。設定した[平均化処理設定回数]に達すると自動的に「STOP」ボタンが ON になり測定停止します。平均化処理中に「STOP」ボタンを ON にすると、その時点で平均化を終了し、それまでの平均結果を表示します。平均化処理を優先するため、表示は間欠的な更新となります。「PAUSE」ボタンを押すと一時停止し、再度「PAUSE」ボタンを押すと平均化を継続して行います。





-11 Y 軸表示単位変更(「Log」→「Lin」)

Y 軸表示単位を「dB」から「Lin」(加速度直読)に変更します。

 グラフウィンドウ下部のY軸表示単位ツールで「Lin」に設定します。または「コンフィグレ ーション」ウィンドウで、[データ表示設定]→[Y軸スケール設定]→[Lin/Log]→[Lin] に設定します。

	Log/Lin の関係式
Log =	= $10 \operatorname{Log} (\operatorname{Lin} \boldsymbol{\sigma} \boldsymbol{\hat{\omega}})^2 = 20 \operatorname{Log} (\operatorname{Lin} \boldsymbol{\sigma} \boldsymbol{\hat{\omega}})$
(例)	$Lin = 2 m/s^2$ の場合、 $20 Log(2) = 6(dB)$

「dB」スケールでは表示できたデータが、「Lin」に変更すると、表示できないほど小さくなる ことがあります。下図は周波数レンジを 1kHz に変更し再測定したもので、パワースペクトル データが非常に小さくなってしまっています(手順-12 で Y 軸スケールを拡大する必要があり ます)

📑 Onosokki DS-3000(DS-0	320) - [ウィンドウ 1]				×
🛃 ファイル(E) 計測コントロール(②) 編集(E) 入出力設定	Û ∦	解析設定	設定(A) データ表示設定(D) モード(M) 表示(V) ウィンドウ(W) オブション(D) ヘルブ(H) 💶 🗗	×
	ART PAUSE STOP	REC	:	III III IIII IIIII IIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIII	
コンフィグレーション	ņ	×		Current Current-3D Schedule Schedule-3D CH 2 💙 ກワースヘウトル	
	Ŧ	8-		CH2 時間輸波形 Real	5
▶ 編集		~		4	78
▶ 入出力設定					
▶ 解析設定			≘		
▽ データ表示設定		_	ي 2	ייין איז	Ċ,
▶ グラフフォーマット設定			s/e	-1 bearsenessessessessessessessessessessessesse	78
▶ データ設定	CH2: パワースへのトル				
▶ X 軸スケール設定	Lin				
▽Y軸スケール設定	Default				
拡大	Exec			s	
「「「「」」「「」」「「」」「「」」「「」」「「」」「「」」「」「」」「「」」「」」「」」「」」「」」「」」「」」「」」」「」」」	Exec			X: 0.509s Y: 1.236m/s2	
上四月1世	32.43302			and the - Million of	
下吃1世					
Lin/Log	Lin	۱.			
MagdB/MagLog	MagdB		_ ≏		
スペクトル単位1	rms		ġ.		
スペクトル単位2	V		27 27		
スペクトル密度	OFF		× m		
位相アンラップ				5	
▽ カーソル設定	Search				
▶ カーソル位置設定					
▶ X 軸カーソル設定				Hz (Hann)	
▶ Y 軸カーソル設定					
▶ デルタカーソル設定		~	Sear	earch 🕑 ⊿ 🔚 0042 💌 🔺 🔽 X軸拡大 Lin 💌 📵 📴 Lin 💌	
<u>▶</u> µ',=7,	1		,		



-12 Y 軸スケール設定

表示されたパワースペクトル波形を見ながら、Y軸スケールを設定します。

 グラフウィンドウ下部の拡大・縮小ボタン [10] をクリックすると「アクティブ画面」の スケールを変更できます。下図は手順-11のパワースペクトルデータのY 軸スケールを拡大表 示したグラフです。



また、「コンフィグレーション」ウィンドウで [データ表示設定] → [Y 軸スケール設定] を クリックし、[Default] / [Auto] / [Manual] のいずれかを選択することでも Y 軸スケール を変更することが出来ます。

Auto	アクティブ画面をデータに合わせ自動スケールで描画します。さらに [オートス ケールロック] を ON すると、その時点のオートスケール値が固定され、以後の 測定はこのスケールで描画します。
Manual	[上限値]、[下限値] で設定されたスケールでアクティブ画面を描画します。
Default	測定されたときの電圧レンジでアクティブ画面を描画します。このとき [拡大] → [Exec]、[縮小] → [Exec] を実行すると、拡大・縮小ボタン [🗐] と同じ動作をします。

下図はパワースペクトルで [Y軸スケール設定] → [Auto] を実行したデータです。

опо боккі



-13 カーソル操作と値の読取り

任意の位置の X 軸・Y 軸値を読むにはカーソルツールを使用します。

① グラフウィンドウ下部のカーソル設定ツールで [Search] に設定します。または「コンフィグレーション」ウィンドウで [データ表示設定] → [カーソル設定] → [Search] の順にクリックします。アクティブ画面内にカーソル(赤色の縦線)が表示されます。カーソルをグラフ内の任意の位置へ移動するには、データ内の希望の位置でクリックします。キーボードの左右矢印キーを使用して微調整できます。カーソル位置のX軸・Y軸値はグラフ下部に「X:100Hz、Y:0.155m/s2r」のように表示されます。





-14 速度、変位への変換表示(周波数積分)

加速度信号を 1 重積分すると速度に、2 重積分すると変位に変換されます。 1 重積分することは $\frac{1}{2\pi f}$ の掛け算を行いますので、周波数fが大きいときわめて小さい値になります。逆に言えば低 周波が相対的に大きくなります。そのため測定時に DC 成分をカットするようにして測定します。

- ① 「コンフィグレーション」ウィンドウで、[入出力設定]→ [時間軸前処理設定]→ [**Open**] の順にクリックします。「時間軸前処理設定」ダイアログボックスが開きます。
- ② 「時間軸前処理設定」ダイアログボックスで「Ch2」の「DC キャンセル」と「DC 除去」にチェックを入れます。

7 - / / / ① 計構立、トロール② 編集② 入出方設定 新研設を回いた 2 - / / / ② パー パー	🗃 Onosokki DS-3000	(DS-0320) - [ウィンドウ 1]									
Image: Start Pause Stop Rec Image: Stop Rec </td <td>📑 ファイル(E) 計測コント</td> <td>・ロール(C) 編集(E) 入出力設定</td> <td>① 解析設定(</td> <td><u>A</u>) データ表示誘</td> <td>定(D) モード(M)</td> <td>表示(⊻) ウ</td> <td>心ドウ∞ オ</td> <td>プション(0) ヘル</td> <td>ブ(H)</td> <td>_ é</td> <td>Ξ×</td>	📑 ファイル(E) 計測コント	・ロール(C) 編集(E) 入出力設定	① 解析設定(<u>A</u>) データ表示誘	定(D) モード(M)	表示(⊻) ウ	心ドウ∞ オ	プション(0) ヘル	ブ(H)	_ é	Ξ×
1) ファイル 1 Current Current-3D Schedule Schedule-3D CH1 ▼ ハワ-Zヘウh4 ▼ Mag 1) ファイル E CH2 時間絶決形 Real 1) ファイル H割コントロール 1 CH2 時間絶決形 Real 2) ファイル 1 02 03 04 05 06 07 08 2) ステム設定 Open 01 02 03 04 05 06 07 08 2) ステム設定 Open 1 02 03 04 05 06 07 08 2) ステム設定 Open 1 02 03 04 05 06 07 08 2) ステム設定 Open 1 02 03 04 05 06 07 08 2) ステム設定 Open 1 02 03 04 05 06 07 08 2) ステム設定 Pass 05 05 07 08 1 2) ステム設定 Pass 05 05 07 08 1 2) ステム Pass 05 05 07 08 1 2) スケジュ Pass 05 05 07 08 1 2) アンスキャンセル 105 05 05 07 08 1 1 2) ビークション Pass 05 05 07 08 1 2) ビークション Pass 10 05 05 0	$ \begin{array}{ c c c c c c c c c c c c c c c c c c c$	START PAUSE STOP	REC T		EI ≯ CCG→ SLOPE SIG OU	т			8.8 r/min	L:1000 U:8	3000
● オン・クリール ● 日本・特徴を放下 Real ● オン・クリール ● 日本・特徴を使う ● ス出力設定 ○ 0 - 0 ● クス・出力設定 ○ 0 - 0 ● クス・出力設定 ○ 0 - 0 ● のス・組合でした。 ● 0 ● のたい ● 0 ● 回答 ● 0 ● 1 ● 0 ● 0 ● 0 ● 0 ● 0 ● 0 ● 0 ● 0 ● 0 ● 0 ● 0 ● 0 ● 0 ● 0 ● 0	コンフィグレーション		+ × 🔳	Current	Current-3D So	hedule So	shedule-3D	GH 1 🔽 🔊	フースへわトル	🗸 Mag	
▶ 77/ル ▶ 計測コントロール > 編集 ◇ 入出力設定 ◇ 入出力設定 ◇ 口、縮合せ設定 ○ Den > 周浜枚以 ご>35定 ○ Den > 小市谷 > 小市谷 ● 101 ○ Den > 小市谷 ● 101 ○ Den > 小市谷 ● 101 ○ Den > 小市谷 ● 101 ● 101 ○ Den > 小市谷 ● 101		Ē	₽ ₽-	CH2:時間#	転#F Real						<u>ب</u>
	▶ ファイル		<u>∧</u> ⊂	1						9	76
> 編集 2 -05 > 27,75,85定 Open > 03,76,85定 Open > 周波数10/2582 Open > 105,851/25724 Open > 107-85,852 Open > 107-87,852 Open > 107-87,852 Open > 107-87,852 Open > 107-97,852 Open > 107-98,952 Open > 107-98,952 Open > 107-91,952 Open > 107-91,952 Open > 107-91,952 Open 27-98,952 OH: 107-20,954,754	▶ 計測コントロール		3					A A A A A A A A A A A A A A A A A A A	NATIONAL AND A CONTRACTOR		\sim
◇ 人出力設定 Open 01 02 03 04 05 06 07 08 > 以方人設定 Open ○	▶ 編集		28	-0.5	adaadadahahahahah			a a de la catala casa a			
ウスス設定 Open の2,446 世級定 Open > 周波数 いジ設定 1.KHz > 人力設定 Open > サンガル条件設定 Open > 世間式入力設定 Open > レガル-条件設定 Open > 単広、材正設定 Open > レガル・条件設定 Open > レガル・条件設定 Open > レガル・条件設定 Open > レガル・条件設定 Open > レガル・水口・袋定 Open > レガル・水口・袋定 Open > レガル・レンド除去 絶対値 > レガー・した ① > レガー・した ③ > レガー・した ○ > レガー・ ○ > ケー ○ <	◇ 入出力設定				1 D2	03	04	05	06 07		な
○DLA#S 05.0 C Open > Bickgt レンジB2定 11.kt > 入力設定 Open > サンフル条件設定 Open > Bickgt LyジB2c Open > UDX-Aft設定 Open > WHINER Open > WHINER Open > WHINER Dopen > WHINER Dopen > WHINER Open > Polycopen Open > WHINER Open >	システム設定	Open		X: 1 796s Y:	0.987m/s2						76
● おいたな レクタ おしを ● CPE ● 入力設定 ● CPE ● サングル条件設定 ● 内部 ● 回転入力設定 ● PAB ● 回転入力設定 ● PAB ● INT-Se Art設定 ● CPE ● UNT-Se Art設定 ● CPE ● INT-Se Art設定 ● CPE ● INT-Se Art設定 ○ Open ● INT-Se Art設定 ○ Open ● INT-Se ArtSpic ○ Open ● FARLWardSpic	20人組合で設定	1k Ha									
	▶ 入力設定	Open	2	0.5 CH2: 177-7	ヘックトル Mag					——————————————————————————————————————	
● 回転入力設定 ● ▶ 10時人力設定 ● ● 以方一条件設定 ● 単位、校正設定 ○pen > 時間着前処理設定 ○pen > 時間者前処理設定 ○pen > 次方つを示設定 ○pen > デッを設定 ○H1: ハ?ワースへ?りル 上 □ □ ・ × 軸スケール設定 ○H1: ハ?ワースへ?りル ・ × 軸スケール設定 ○H1: ハ?ワースへ?りル	▶ サンブル条件設定	内部									
ト リガー条件設定 Repeat 単位、校正設定 Open > 時間時間検護定 Open > 時間時間検護定 Open > 中均比処理設定 NワーSP 加度平均 > 人方ジュール設定 定時間スグジュール > 自告告出力設定 Open > 解析設定 Open > アウ表示設定 Open > アータ表示設定 Open > アータ表示設定 Open > アータ表示設定 Open > アータ設定 OH: ハワースハウトル Lin CH: ハワースハウトル	▶ 回転入力設定		時間軸前	処理設定							
単位、校正設定 Open 次間時設定 Open > 時間時がなままた Open > 平均比がなままた Open > 平均比がなままた Open > 平均比処下除去 総対値 > アガット設定 20000 > 修研設定 ハワーSP/加重平均 > 水均加速定 定時間入グジュール > 修研設定 Open > 解析設定 Open > 修行の表示設定 Open > グラック表示設定 CH1: パワースへウトル > メ 値入ケール設定 Lin	▶ トリガー条件設定	Repeat				I					
※開始時空 Open 》目的時前地域目空 Open 》甲均化均量设定 パワ・SP加資平均 》中均化均量设定 パワ・SP加資平均 》大分ジュール設定 定時間スグジュール > 信号出力設定 Open > 解析的設定 Open > 解析的設定 Open > 解析的設定 Open > 所有方数定 Open > 解析的設定 Open > グラッフオーマット設定 CHI: パワースペラ外ル > X 輸入ケール設定 Lin 全チャンネル設定	単位、校正設定	Open		- レンド除去 絶:	対値 DC キャンセル	極性反転	スムージング	点數	時間軸微積分	DC 除去	
・時間時前処理設定 Open OH2 ・ ・ 3 OFF ・ ・ ・中均化処理設定 パワーSP.加度平均 CH3 3 OFF ・<	窓関数設定	Open	СН1					3	OFF 🚩		
 ▶ 中均比処理設定 ハウーSr.加量中均 ト スクジュール 快付用スクジュール ト 信号出力設定 ○ Den ▶ 解析設定 マ データ表示設定 ▶ デーシ設定 ○ H1: パワースへりは (H1: パワースへりは) <	▶ 時間軸前処理設定	Open	CH2		□ (☑)			3 🛄	OFF 🔽		
 ▶ パケンユール設定 ▶ 使け面以ケンユール ▶ 停げ面以ケンユール ▶ 停げ面以ケンユール ▶ 停げ面以ケンユール ▶ 停げ面以ケンユール ▶ 停げ面以ケンユール ▶ グランフォーマット設定 ▶ グランフォーマット設定 ○ CH1: パワースへり ○ CH2: パワースへり	▶ 半均化処理設定	ハ"ワーSP.加算半均	CH3					3 🛄	OFF 🔽		
 ▶ First 2018次と (Delin) ▶ First 2018次と (Delin) ▶ First 2018次と (Delin) ▶ グラフフォーマット設定 (Delin) ▶ ブラク設定 (Delin) ▶ ブラク設定 (Delin) ▶ X 軸スケール設定 (Delin) ▲ チャンネル設定 (Delin) 	▶ 人ケンユール設定 ▶ /言是山市設定	定時間スケンユール	CH4					3 🛄	OFF 🔽		
 ✓ F→AgaTabic ✓ F→AgaTabic ✓ F→AgaTabic ✓ F→AgaTabic ✓ F→AgaTabic ✓ CH1: パワースへりル × 48-スケール設定 Lin 	▶ 解析論定										
 ▶ グラフフォーマット設定 ▶ グラフフォーマット設定 ▶ デーシ設定 CH1: パワースペラトル ▶ X 軸スケール設定 Lin 全チャンネル設定 	▽ データ表示設定										
▶ データ設定 CH1: ハワーZヘ物ル↓ ▶ X軸Zケール設定 Lin 全チャンネル設定	▶ グラフフォーマット設定										
▶ X 軸スケール設定 Lin 全チャンネル設定 全チャンネル設定 (たい but	▶ データ設定	CH1: パワースへわトル									•
	▶ X 軸スケール設定	Lin								> + + = = = = = = = = = = = = = = = = =	
									至于	?ノイル設定	
OK ##5701								(ок	キャンセル	

- ③ メインツールバーの「START」、「STOP」ボタンを使用して測定を行います。
- ④ 4画面表示(手順-3を参照)に変更し、上:時間軸波形、2~4段目をパワースペクト表示にし、[Y 軸スケール]→[Auto]としておきます。単位校正で単位を「m/s2」としましたので速度、変位の単位へ自動変換して表示します。
- ⑤ 「コンフィグレーション」ウィンドウで、[解析設定] → [周波数微積分] → [積分単位変換] の順にクリックし、その右側の ボタンをクリックします。ボタンが ここ に変わり積分単位変換が有効になります。
- ⑥ 3段目のグラフをアクティブにし、[周波数微積分]→[1重積分]の順にクリックします。
 3段目のグラフが速度表示になります。

ΟΝΟ ΙΟΚΚΙ

 ⑦ 4段目のグラフをアクティブにし、[周波数微積分]→[2重積分]の順にクリックします。
 4段目のグラフが変位表示になります。下図にその結果を表示します。なお、1.25Hzの成分が 大きく表示されるのは上述の理由によります。



⑧ 2 重積分を解除するには [解析設定] → [周波数微積分] → [OFF] に設定します。

-15 リスト表示

15-1 Peak リスト表示

- リスト表示したいグラフをクリックし、アクティブにします。
- 「コンフィグレーション」ウィンドウで、[データ表示設定] → [リスト表示] の順にクリックし、
 その右側の
 ボタンをクリックします。ボタンが
 「
 に変わり [リスト表示] が有効
 になります。
- ③ [リスト表示の種類]の右側のプルダウンメニューから [Peak]を選択します。「Peak リスト表示」 が設定されます。「Peak リスト表示」では、自動で"Peak"を検索しリスト表示します。なお、こ こでは [リスト表示のレイアウト] → [グラフとリスト]、[リスト表示数] → [10 本] に設定し ています。
- ④ [Y データソート]→ [Exec] をクリックします。Y 軸値の大きい順にデータをソート (並べ替え)します。
- ⑤ [ピークリスト]→[しきい値]をクリックし、その右側のボタンをクリックして ON (にします。さらに、[閾値レベル]→[60%]と設定します。この設定により、画面幅を 100%として、60%以上のピークをリストアップします。そのため設定された閾値ラベルより小さい値のピークは削除され、リスト数が少なくなります。

ΟΝΟ ΙΟΚΚΙ

下図に Peak リストの実行結果を表示します。



15-2 任意位置リスト表示

- リスト表示したいグラフをクリックし、アクティブにします。
- ② 「コンフィグレーション」ウィンドウで、[データ表示設定]→[リスト表示]の順にクリックし、その右側の ボタンをクリックします。ボタンが ここ に変わり [リスト表示] が有効になります。
- ③ [リスト表示の種類]の右側のプルダウンメニューから [Arbitrary] を選択します。「任意位置 リスト表示」が設定されます。「任意位置リスト表示」では、カーソル位置の値をリストに登 録します。
- ④ 右側の表で [リスト No1] をクリックしアクティブにします。
- ⑤ グラフウィンドウ下部ツールで [Search] に設定変更します。
- ⑥ カーソルをリストアップしたい位置に合わせます。
- ⑦ 「コンフィグレーション」ウィンドウで、[リスト表示]→[任意リスト]→[設定]→「**Exec**」 を実行します。右側の[リスト No.1] に登録されます。

ΟΝΟ Ο ΚΚΙ

⑧ 同様に [リスト No.2] のリスト設定をします。

🗃 Onosokki DS-3000(DS-0	320) - [ታィンドウ 1]			
📑 ファイル(E) 計測コントロール	○) 編集(E) 入出力設定() 解析書	浙設定(A) データ表示設定(D) モード(M) 表示(V) ウィンドウ(W) オブション(D) ヘルプ(H) -	ъ×
	RT PAUSE STOP	REC	TRIG SCHED SLOPE SIG OUT	9:8000
コンフィグレーション	4	×	🔠 Current Current-3D Schedule Schedule-3D CH 2 🕑 ภฑ-ว<	
			CH2:時間軸波形 Real	人式
▶ 入出力設定		<u>^</u>		74
▶ 解析設定				
▽ データ表示設定	1	Ę		
▶ グラフフォーマット設定		8		것보
▶ フェータ設定 ▶ 又あつたール 読字	CH2: M9=X4 9ND	È	= -) catality constitutes and three and three and three and it is constituted at the constitutes of three and thr	276
▶ × 軸スケール設定	Auto		-3	
▶ カーハル設定	Search		-4	
N=>B			0 0.1 0.2 0.3 0.4 0.5 0.6 0.7 0.8	
▽リスト表示			S X: 91.950mc X: -40.690mm/c2	
リスト表示の種類	Arbitrary		Storizoonis I. Hotooninii sz	
リスト表示レイアウト	グラフ&リスト	÷	0.5 CH2: パワースへ ウトル Mag	<u>ê</u>
リスト表示数	10		97.5000 0.2196	
IJZE NoJY-E	Exec			
「ステータ」シート	Exec	بنة.		
► P=-buzk	2.00	×		E
▶ ハーモニックリスト				
▽ 任意リスト			0.1 6 0	
アクティブ No	1 🔽 🔺 🔻			
設定	Exec		U 200 400 500 800 1000 2 0	
角罕D余	Exec		X 100.000Hz Y: 10.359mm/s2r 5 0	
全登録解除	Lxec			<u> </u>
▶ 3次元表示 		Se Se	Search 💌 🔟 🛄 WU/2 💌 ▲ 💌 🗋 X韓田延天 Lin 💌 🔍 🔍 Lin 💌	

-16 3D 表示

- ① グラフウィンドウ上部の「Current-3D」ボタンをクリックし、3D 表示画面に切り替えます。
- ② グラフウィンドウ上部の入力源選択ツールで「CH2」を選択し、その右のプルダウンメニューから 「パワースペクトル」を選択します。(「Current-3D」に切り替えたとき、「Graph 1」のデータ (ここでは時間軸波形)が表示されますので、「CH2」を「パワースペクトル」に変更します。)



③ メインツールバー内の「AVG」ボタンをクリックし、OFFにします(ボタンの青色枠が消えます)。 「AVG」ボタンを ON のまま測定を「START」すると、平均化終了するごとに平均化された データを 3D 描画します。



- ④ メインツールバー内の「START」ボタンを押します。データの大きさに応じたカラーで 3D 表示されます。「STOP」ボタンで表示を停止します。
- ⑤ 3D のグラフエリア内をクリックすると、赤色十字線が表示され、上部及び左側面に赤線部分の断面データが表示されます。
- ⑥ グラフウィンドウ下部のツールでカーソル設定を「Search」に設定します。上部及び左側面グ ラフで注目周波数をクリックするとカーソルが移動するとともに赤色十字線も移動します。



⑦ 3D グラフエリア内で右クリックし、ポップアップされたメニューから「3 次元表示」をクリック すると、コンフィグレーションウィンドウの[データ表示設定]→[3 次元表示]が開きます。 ここで、[表示ライン本数]など 3D に関する各種設定が変更できます。

🗃 Onosokki DS-3000(DS	-0320) - [ウィンドウ 1]					
📑 ファイル(E) 計測コントロー	ル(C) 編集(E) 入出力設定(D)	解析設定(A)	データ表示設定(D)	モート(M) 表示(V) ウィ	ンドウ── オブション──	_ & × <mark>.</mark>
FFT X AVG S	TART PAUSE STOP	REC TRIG	SCHED SLOPE	CCG≁ SIG OUT	0.0 r/mir	• L:1000 U:800
コンフィグレーション	ą.	× 🗐 – Cu	arrent Current-31	Schedule Sched	ule-3D CH 2 💌 /	19フースへのトル
	CH2: //7-ZA [®] /k/Lin Default Search	■ C C C C C C C C C C C C C C C C C C C	Current-3	Schedule Schedule Schedule 10 CH2 パワ -00 -00 -00 CH1+C デーウ酸定(E) X 輸入ケール設定(Y) カーツル設定(B) グラフ設定(B) 3 次元表示(D) 解析設定(A)	Le=3D CH 2 ♥ 7 -2.^^)↓ Mae Len:	
 ▶ オブション ▶ ヘルプ 		Search		x 95.000 2 マ A マ X軸扨	Hz Y: =20.92dBm/s2r 大 Lin	Log 🗸
		<u> </u>				



⑧ パワースペクトル表示に戻るにはグラフウィンドウ上部の「Current」ボタンをクリックします。

<備考>

「Current-3D」で「データの保存」(手順-18を参照)を実行すると、ファイル名の「No」が連番になって、下のデータから順に自動保存されます。また、「データの保存」の操作で、「Current-3D」表示にして一番小さいファイルの「No」を設定し[保存データを開く]を実行すると、上にファイル番号が小さい順に3D表示を行います(保存時と逆順の表示となります)。カーソル位置のファイル名が「File(File_0042.dat)」と表示されます。





-17 オクターブ表示

パワースペクトルを束ねオクターブ表示にします。

- オクターブ表示したいグラフをクリックし、アクティブにします。
- ② グラフウィンドウ上部の入力源で「CH2」を、表示波形のプルダウンメニューで「オクターブ」 を、またその右のプルダウンメニューでオクターブのタイプ [1/1 Oct]、[1/3 Oct] を設定します。

下図は 1/3 オクターブの実行結果とそのリストを表示しています。





-18 データの保存

「コンフィグレーション」ウィンドウで、[ファイル]→ [計測データファイル]→ [データの保存]→ [Open] の順にクリックします。「名前を付けて保存」ダイアログボックスが開きます。

🗃 Onosokki DS-3000(DS-0320) - [ウィンドウ 1]						3
📑 ファイル(E) 計測コントロール(C) 編集(E) 入出力設定Φ	解析設定(A)	データ表示設定(D) モ	ド(M) 表示(V)	ウィンドウ(W) オプション(Q)	_ 8 ×	-
FFT X START PAUSE STOP RE		名前を付けて保存				? 🛛
コンフィグレーション 中		保存する場所①:	🗀 DS3000用		💌 🔾 🦻	📂 🛄 -
	General Control Contro	 最近使ったファイル でごう デスクトップ デスクトップ マイ ドキュメント マイ ニングュータ マイ ネットワーク 	 File_0042 dat File_0043 dat File_0044 dat File_0044 dat File_0044 dat File_0044 dat File_0047 dat File_0047 dat File_0050 dat File_0053 dat 	File_0054.dat ■ File_0066.dat File_0056.dat ■ File_0067.dat File_0057.dat ■ File_0063.dat File_0058.dat ■ File_0063.dat File_0058.dat ■ File_0077.dat File_0052.dat ■ File_0077.dat File_0052.dat ■ File_0077.dat File_0053.dat ■ File_0071.dat File_0053.dat ■ File_0063.dat File_0053.dat ■ File_0063.dat File_0055.dat ■ File_0054.dat	tt tt tt tt tt tt tt	【保存⑤】 ▼ キャンセル
 						
▶ 表示		保存対象の選択	₹ 全表示データを-	- 括 🛛 🔽 🔽 DAT 形式で保存	F 🔽 TEXT 形式	で保存 🔽 TRC 形式で保存
) ウンドウ トナヤロン		FileName File		No 7	2	
► 1/1/2		Display File N	ame	Comment	CH	DataKind
	X:6	1 File_0	072.dat	File (File_0071.dat):	パワー CH-1	パワースへやトル
		1 File_0	072.txt	File (File_0071.dat):	パワー… CH-1	ハワースへのトル
	Search	2 File_0	073.dat	CH2፡ パワース∿ንトル	CH-2	ለማ− ス ヘ°ウトル
		2 File_0	073.txt	GH2፡ パワースへ ንኮル	CH-2	ハワースへウトル
		2 FileLi	st_0073.txt	CH2፡ パワースペウトル	CH-2	ለማ− ス ∿ንトル
]

- ② 「名前を付けて保存」ダイアログボックスで、「保存する場所」及び「保存対象の選択」を設定します。
- ③ 「保存対象の選択」右側の「DAT 形式で保存」と「TEXT 形式で保存」がチェックされている こと確認します。
- (4) 「File Name」、「No.」をキーインすると、「File Name」一覧が下部に表示されます。複数のグラフが表示されている場合、「No.」は自動的に連番が付きます。
- ⑤ 「保存」をクリックします。なお、「コンフィグレーション」ウィンドウで [ファイル] → [計 測データファイル] → [データの保存実行] → [**Exec**] を実行すると、前回手順 ① ~ ④ で 保存された条件で「No.」が自動で繰り上がった番号の「File Name」で保存が実行されます。

<備考>

- 「DAT 形式」は ONOSOKKI オリジナルの形式で"計測データ"を保存します。「TEXT 形式」は"表示されている データ"を保存します。「計測データ」と「表示データ」の違いに注意ください。例えば"パワースペクトル"と"束 ねオクターブ"を表示している場合、パワースペクトルは計測データなので DAT 形式と TEXT 形式で保存されます が、束ねオクターブはパワースペクトルを2次処理して表示したデータなので、DAT 形式ではパワースペクトルが、 TEXT 形式では束ねオクターブが保存されることになります。
- 「Current-3D」表示でデータ保存すると、表示本数分のデータが保存されます。



-19 保存データを開く

DAT 形式で保存されたファイルのみ開くことが出来ます。また、例外的に「TEXT 形式のパワース ペクトルと時間軸データ」を開くことができます。

- 再生したい画面位置をクリックしアクティブにします。保存データはこのアクティブ画面上に 表示されます。
- ② 「コンフィグレーション」ウィンドウで、[ファイル] → [計測データファイル]
 → [データを開く] → [Open] の順にクリックします。「ファイルを開く」ダイアロ グボックスが開きます。
- ③ 「ファイルを開く」ダイアログボックスで「ファイルの種類」を「*.dat」に設定します。
- ④ 開きたいファイル名を選択します。
- ⑤ 「開く」をクリックします。選択したファイルがアクティブ画面上に再生されます。
- 6 複数のファイルを開くには手順 ① ~ 5 を繰り返します。

🗃 Onosokki DS-3000(DS-0320) - [ウィンドウ 1]		
📑 ファイル(E) 計測コントロール(C) 編集(E) 入出力設定(D) 解析設定(A) データ	表示設定(型) モード(M) 表示(型) ウィンドウ(W) オブション(型) ヘルプ(出)	_ 8 ×
FFT X START PAUSE STOP REC TRIG SC	HED SLOPE SIG OUT	[] .[] _{r/min}
コンフィグレーション 🕂 🗶 Current	Current-3D Schedule Schedule-3D CH 2 🗸 時間軸波形	V Real V
田 🖿 CH2: 時間		比
✓ 774/k 4 3	ファイルを開く	? 🔀
マ計測データファイル マ計測データファイル	ファイルの場所 (D): 🗁 DS3000用 🛛 🗸 🗸 🗸 🗸	G 🦻 📂 🖽
データの保存 Open データの保存 Open データの保存 Open データの保存 Open ド島ボークタの保存 Exec レコードファイル オフライン解析データを聞く レロードファイル オフライン解析 オフライン解析 Open ・レコードファイル オフライン解析 小口の根据能 Exec シ目離 Exec シ目離 Exec シス出力設定 05 シス出力設定 04 シス出力設定 02 シスしたり数定 02 シストー 02 シストー 02 シストー 02 シストー 02 シストー 03 シストー 04 シストー 04 シストー 02 シストー 03 シストー 04 システ 04 システ 04 システ 04 シスト 04 シスト 04 シスト 04 シスト 04 シスト 04 <t< td=""><td>File_0042dat File_0060dat #$j \pm j \pm j \pm 7 + 7/\mu$ File_0040dat File_0061dat File_0041dat File_0061dat File_0061dat File_0041dat File_0061dat File_0063dat File_0041dat File_0061dat File_0063dat File_0041dat File_0063dat File_0063dat File_0047.dat File_0065dat File_0065dat File_0051.dat File_0068dat File_0068dat File_0051.dat File_0053dat File_0070.dat File_0053.dat File_0053.dat File_0053.dat File_0055.dat File_0056.dat File_0056.dat File_0055.dat File_0056.dat File_0056.dat File_0056.dat File_0056.dat File_0056.dat File_0056.dat File_0056.dat File_0056.dat File_0056.dat File_0056.dat File_0056.dat File_0056.dat File_0056.dat File_0058.dat File_0056.dat File_0058.dat File_0058.dat File_0058.dat File_0058.dat File_0058.dat File_0058.dat File_0058.dat File_0058.dat File_0058.dat File_0058.da</td><td></td></t<>	File_0042dat File_0060dat # $j \pm j \pm j \pm 7 + 7/\mu$ File_0040dat File_0061dat File_0041dat File_0061dat File_0061dat File_0041dat File_0061dat File_0063dat File_0041dat File_0061dat File_0063dat File_0041dat File_0063dat File_0063dat File_0047.dat File_0065dat File_0065dat File_0051.dat File_0068dat File_0068dat File_0051.dat File_0053dat File_0070.dat File_0053.dat File_0053.dat File_0053.dat File_0055.dat File_0056.dat File_0056.dat File_0055.dat File_0056.dat File_0056.dat File_0056.dat File_0056.dat File_0056.dat File_0056.dat File_0056.dat File_0056.dat File_0056.dat File_0056.dat File_0056.dat File_0056.dat File_0056.dat File_0058.dat File_0056.dat File_0058.dat File_0058.dat File_0058.dat File_0058.dat File_0058.dat File_0058.dat File_0058.dat File_0058.dat File_0058.dat File_0058.da	
Search 💌		
	CH DataKind L Commant	
	CH DataKind Comment CH2 ภฑ−スヘฑิฟิ CH2: ภฑ−スヘฑิฟิ	



下図は、3 画面表示にして、下段に保存したパワースペクトル「File (File_0042.dat)」を再生してい ます。また、開いたファイルがパワースペクトルの場合、グラフエリア内のツール「入力源」のプ ルダウンメニューで「オクターブ」の表示が可能です。



-20 表示画面位置の入れ替え

表示された「Graph」の順番は入れ替えることが出来ます。

- 移動したいグラフ画面をクリックし、アクティブにします。
- アクティブグラフを移動先までドラッグします。

下図は1/3オクターブを下段から上段へ移動した様子を示します。





-21 File 表示から CH2 時間軸表示への切り替え

- ① 手順-19 で開いた「File (File_0042.dat)」グラフをクリックしアクティブにします。
- ② 「コンフィグレーション」ウィンドウで、[データ表示設定] → [データ設定] → [ターゲットデータ接続] → [Exec] の順にクリックします。CH1のデータが表示されますので、グラフウィンドウ上部のツールで「入力源」を「CH2」に、表示波形のプルダウンメニューで「時間軸波形」に設定します。



-22 プロジェクトの保存と再生

測定条件や単位校正設定値はプロジェクト単位で保存しておくことが出来ます。同じ設定条件で試 験したい場合は、保存されたプロジェクトを開くことで詳細な設定が不要となり、「START」ボタ ンのクリックで、直ぐ計測が開始できます。

22-1 プロジェクトの保存

- 「コンフィグレーション」ウィンドウで、[ファイル] → [プロジェクトファイル] → [プロジェクトの保存] → [Open] の順にクリックします。「名前を付けて保存」ダイ アログボックスが開きます。
- ② 「名前を付けて保存」ダイアログボックスで、「保存する場所」、「ファイル名」を設定し「保存」をクリックします。

опо боккі

コンフィグレーション	×			
• E				
 ▽ ファイル				
▽ ブロジェクトファイル	_			
新規プロジェクト Exe				
プロジェクトを開く Open				
プロジェクトの保存 Open		1		
プロジェクト設定 C*Document:	2 41			
▶ 計測データファイル	名前を付けて保存			? 🛛
▶ レコードファイル	但在于无限部分	👄 #1 0 = 0 B 4	2)	
オフライン解析データを開く Open	1未1子9 ②场用1型		2)	₽
▶ ED刷機能				
終了 Exec				
▶ 計測コントロール	最近使ったファイル			
▶ 編集				
▶ 入出力設定				
▶ 解析設定	デスクトップ			
▶ データ表示設定				
▶ 1 – [×]				
▶ 表示	マイドキュメント			
	-			
▶ A,IJ	マイコンピュータ			
	~			
		ファイル名(N):	Project1	✓ 保存(S)
	マイ ネットワーク		Design (File (A. 10-1)	
		ノアイノレリバ里大見へ工人	ProjectFile(*.d3p/	
	プロジェクトファイルコ	メント 		
	Onosokki DS-3000	(DS-0320)		

22-2 保存プロジェクトを開く

- ① 「コンフィグレーション」ウィンドウで、[ファイル] → [プロジェクトファイル] → [プロジェクトを開く] → [**Open**] の順にクリックします。「ファイルを開く」ダイア ログボックスが開きます。
- ⑦ 「ファイルを開く」ダイアログボックスで、「ファイルの保存場所」、「ファイル名」を選択し、
 「開く」をクリックします。

コンフィグレーション	×						
	⊕ ■-						
マゴロジェクトファイル							
新規プロジェクト	Exec						
プロジェクトを間K	Open		T				
プロジェクトの保存	Open						
▶ プロジェクト設定	C:¥Documer	ファイルを開く					? 🔀
▶ 計測データファイル		() = 10 T ()	0 441 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				
▶ レコードファイル		ファイルの場所型	□□ 新しいフォルタ ©)	<u> </u>	1	
オフライン解析データを開く	Open		Project1.d3p				
▶ 印刷機能							
終了	Exec	最近使ったファイル					
▶ 計測コントロール							
▶ 編集							
▶ 入出力設定		デスクトップ					
▶ 解析設定		~					
▶ データ表示設定							
▶ モード		77 55-15-16					
▶ 表示		11111201					
▶ ウィンドウ							
▶ オブション		7/7/2-10					
▶ ヘルプ		V1 JJC1-X					
		<u> </u>					
		マイ ネットリーク	ファイル名(N):	Project1.d3p		~	
			ファイルの種類(T):	ProjectFile(#d3p)		~	キャンセル
			A CONTRACT.	Leader of the complex			
		プロジェクトファイルコ					
		Onosokki DS-3000(DS-0320)				
		L					



③ 次のメッセージが表示されますので、「OK」を実行すると、保存したときの設定条件でプロジェクトを開きます。「START」ボタンで測定が開始できます。



-23 起動時の条件設定

起動するときに、"保存されたプロジェクトを指定して開く"などの条件設定ができます。

23-1 終了時の設定条件で起動する

DS-0321 FFT 解析ソフトウェアでの測定を終了した時点の設定条件で起動することが出来ます。

- 「コンフィグレーション」ウィンドウで、[ファイル]→[プロジェクトファイル]→
 [プロジェクト設定]の順にクリックし、右側のプルダウンメニューから[前回使用した状態]を選択します。
- ② DS-0321 FFT 解析ソフトウェアを閉じます。閉じた時点の設定が自動保存されます。
- ③ DS-0321 FFT 解析ソフトウェアを起動します。上記②で終了したときの設定条件で起動 されます。

コンフィグレーション	×	
Ŧ		
マファイル		
▽ プロジェクトファイル		
新規プロジェクト Exec		
プロジェクトを開く Oper		
プロジェクトの保存 Open	📑 Onosokki DS-3000(DS-0320) - [ウィンドウ 1]	
マプロジェクト設定 Ci Documents and Set	.tir 🔄 ファイル(F) 計測コントロール(C) 編集(E) 入出力設定の 解析設定(A)	_ & × _
70977257741173775 (Boosekki DS-3000(DS-		
起動時のプロシェクト設定 前回使用した状態		
近期時の指定ノロシェクト	AVG START PAGE STOP REC TRIG SCHED	JLOFE 31
	- 🔚 🔲 Current Current-3D Schedule Schedule-3D CH 2 💌 時間	軸波形
 Lコードファイル 	く occo CH2:時間軸波形 Real	يد لا
オフライン解析データを聞く Open		46
▶ 印刷機能	2 2 2 and the second se	~~~~~
終了 Exec	₩ ⁶⁰⁰⁰ × 85.352ms Y: 1.304kspl	
▶ 計測コントロール		
▶ 編集	60 CH2: パワースへりいん Mag	
▽ 入出力設定		ua muhana
システム設定 Open		
クロス組合せ設定 Open	X 355.000Hz Y 39.34dBsplr	
▽ 盾)波破レンジ設定 4kHz	049- <i>thb_</i> 1*1/9	
3-7-737527/04-15 UN		
	و د بن ک ک ک ک ک ک ک ک ک ک ک د بند د د د د	
	™ 0 ∨ [26] 400000Ha V: 46 724Daale	
	Peak	in 💌



23-2 指定プロジェクトで起動する

- 「コンフィグレーション」ウィンドウで、[ファイル]→[プロジェクトの設定]→
 [起動時のプロジェクト設定]→[指定したプロジェクト]の順にクリックします。
- ② [起動時の指定プロジェクト]右側[参照キー]で保存したプロジェクトの中から選択し設定します。
- ③ DS-0321 FFT 解析ソフトウェアを起動すると、指定プロジェクトで開きます。



23-3 イニシャル設定で起動する

① DS-0321 FFT 解析ソフトウェアを閉じる前に、「コンフィグレーション」ウィンドウで
 [ファイル] → [プロジェクトファイル] → [プロジェクト設定] → [起動時のプロジェク
 ト設定]の順にクリックし、右のプルダウンメニューから[新規プロジェクト]を選択します。

コンフィグレーション	×
	亜 ▫-
マ ファイル	
▽ プロジェクトファイル	
新規プロジェクト	Exec
プロジェクトを開く	Open
プロジェクトの保存	Open
▽ プロジェクト設定	C:¥Documents and Settings¥ =
プロジェクトファイルコメント	Onosokki DS-3000(DS-0320
起動時のプロジェクト設定	新規プロジェクト 🔽
起動時の指定プロジェクト	C:¥Documents and Settings
リセット	Exec
▶ 計測データファイル	_
▶ レコードファイル	
オフライン解析データを開く	Open
▶ ED刷機能	
終了	Exec
▶ 計測コントロール	
▶ 編集	✓

● 機能を解除するには、ON に設定したボタンを OFF に設定します。例えば [解析設定] → [周波数微積分]
 → [2 重積分] を解除するには、[解析設定] → [周波数微積分] → [OFF] に設定します。